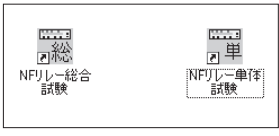
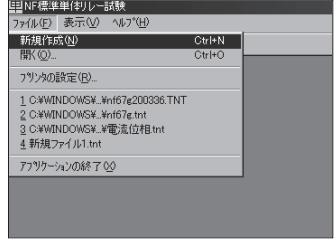
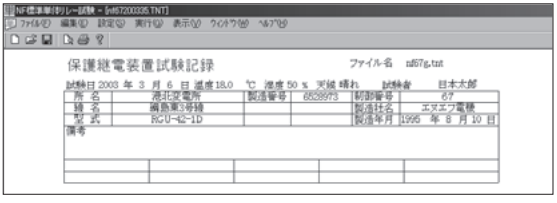



# 自動保護リレー試験ソフトウェアの操作概要

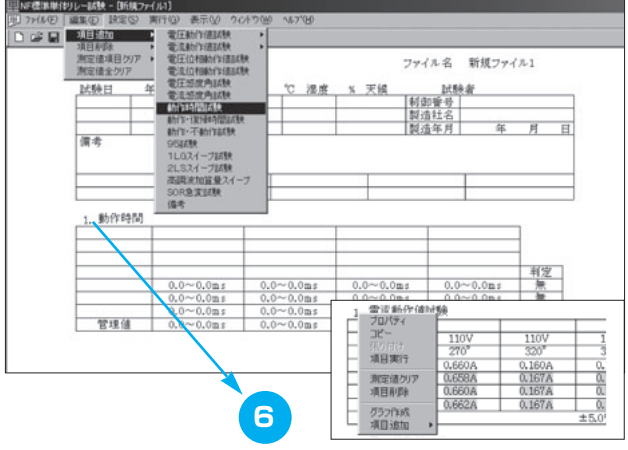
- ソフトウェアをインストール後、「総合試験」「単体試験」のいずれかをクリック。(ここでは「単体試験」を選択)

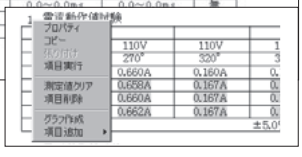

- 「ファイル」から「新規作成」を選択。



- 「F1」の先に「入」の表示が出る場所は、全てコメント入力欄。



- ツールバーの「設定」から「共通設定」を選び、「機器構成」を必ずチェック。特に「 GPIB のアドレス」は最重要。リレー試験器本体の数字と合わせる。(数字のダブリは禁物。アドレス1はマスタになる。)

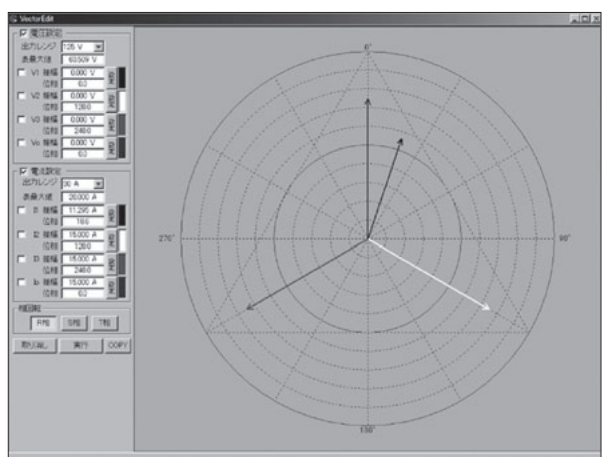

- ツールバーの「編集」から「項目追加」「電流動作値試験」「スweep」を選択。



- さらにクリックして、「プロパティ」「コピー」などの設定コマンドメニューを表示。


- 「プロパティ」を選択。設定やコメントを入力し、試験テンプレートを作成。


- 手動操作の設定を読み込みできる新機能を装備。


- ベクトルエディタにより、電圧・電流の値を四相までベクトル表示可能。(新機能)


- ベクトルエディタの下部には、各相の電圧・電流値を数値で表示する機能も搭載されている。



13

試験実行は「セル実行」「項目実行」「連続実行」の3種類。実行中はセルが黄色になり、試験終了後、管理値内であればセルが青色に、管理値外やエラーで試験不可の場合はセルが黄色に。判定はシート右端に表示。

14

試験実行結果後、シートを「保存」「グラフ作成」「現場でプリンタに出力」「データのCSV作成」。応用としてお客様による「Excelとマクロで別フォーマットへのCSVデータ変換」可能。

16

17

15

18

▼総合試験の場合

「総合試験」を起動。「ファイル」「新規作成」で6種類のフォーマットを用意。この中からフォーマットを選択。「設定」は「単体」試験の設定とほぼ同じ。

19

20